

## 【苓北町】 校務DX計画

苓北町では、令和5年9月より、校務支援システムを導入し、学校における校務の負担軽減を図り、教員の働き方改革を進めるとともに、今後は、勤務時間管理システム等の検討・導入を行い、更なる改革の推進を行います。

1人1台端末導入前は、ICT教育支援事業として、タブレットや保管庫等周辺機器を整備し、また教職員用パソコンの調達を行い、当町のイントラネットワークへ接続し、各種資料等の情報の共有化を行ってきました。

1人1台端末導入後は、授業支援ソフトウェアや学習eポータル・デジタルドリル等を活用し、児童生徒への各種連絡・学習のデジタル化を進め、また教員と保護者間の連絡は、学校安心メール等を活用しデジタル化を進めています。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきましたが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料があり、業務の円滑化・効率化を目指し、更なるデジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要があります。

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」提言に基づく次世代のデジタル化に向け、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検を踏まえつつ、次に掲げる事項に取り組めます。

### 1. 次世代型校務DX環境の構築

#### (1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

苓北町では、職員室のみアクセス可能な個人情報等の「校務系」と、各教室等で利用できる、インターネットに接続可能な「学習系」の2つに分離し運用をしています。

校務DXの推進及び教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じたうえで、ネットワークの統合について調査研究を進めます。

#### (2) 校務支援システムのクラウド化

苓北町では、令和5年9月より校務支援システムをオンプレミス型（苓北町役場電算室内サーバ上）で運用しており、教務・成績管理などの業務で利用しています。

保護者連絡アプリや汎用クラウドツールと連携し、教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活性化できる環境を構築するため、本システムのクラウド化について、先進自治体の調査を行い、併せて、進化すると思われる技術を研究し、校務支援システムへの名簿情報の不必要な手作業の一掃等に取り組み、令和10年9月更新時に次世代型校務支援システムの導入を目指すため、本システムのクラウド化について、学校現場の教員と情報共有しながら、仕様の作成及びシステム設計・調達事務等を進めます。

## 2. FAX及び押印の見直し

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されています。

当町においても、教育委員会と学校における提出文書の簡素化や当町イントラネットワークを活用した電子提出を進めるとともに、緊急時や不具合時の際、FAXが電子メール等より効率的である場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

## 3. ペーパーレス化の推進

これまで、当町では、各学校において差がありますが、職員会議等において、「校務系」での電子データの共有やグループウェアソフトを活用し、ペーパーレス化を推進してきました。

次年度の予定では、タブレット端末更新に伴い教師用に児童生徒と同じタブレット端末を購入いたします。タブレット端末を利用・活用し、更なるペーパーレス化に向けて研究し推進します。

## 4. その他

デジタルドリルの活用が進む一方で、学校現場では紙のテストの採点業務が教員の負担になっており、デジタル採点システムを導入している先進自治体の取組を参考とし、ICTを活用した採点業務の効率化について調査研究します。

また、グループウェアなどの汎用クラウドツールを活用することで、教職員間の情報共有や連絡を迅速に行い、アンケートや資料の共有、児童生徒の出欠管理など、校務の多くの業務の効率化を目指します。